

様式第 2 号（第 8 条関係）

審議会等会議録

会議の名称	令和 6 年度 第 2 回 加須市総合教育会議
開催日時	令和 7 年 3 月 7 日（金） 午後 1 時 3 0 分から午後 2 時 5 5 分まで
開催場所	加須市役所本庁舎 3 階庁議室
議長氏名	角田 守良市長
出席委員	角田 守良市長、小野田 誠教育長 遠藤 康江教育長職務代理人、猪股 富美子教育委員 秋山 哲也教育委員、松永 修教育委員 片山 上総教育委員（7 名）
欠席委員	－
会議次第	1 開 会 2 あいさつ 3 議 題 「加須市がめざす学校教育について」 4 その他 5 閉会
会議資料の名称	<事前配布資料> ・次第 ・総合教育会議名簿 ・資料 1 加須市立小中学校の適正規模と配置についての経緯及び予定 ・資料 2 総合教育会議の開催を依頼した趣旨 <当日配布資料> ・加須市人づくり宣言 ・令和 7 年度組織の見直し
会議の公開又は 非公開の別	公開
非公開の理由	
傍聴者の数	なし
説明者の職・氏名	生涯学習部長 斉藤 千恵美、学校教育部長 中島 高広

事務局職員職・氏名	副市長 萩原 利一、総合政策部長 石井 幸子 こども局長 野本 朋子、生涯学習部長 齊藤 千恵美 学校教育部長 中島 高広、政策調整課長 矢部 良貴 こども保育課長 関口久美子、教育総務課長 高貫 貢 学校教育課長 高橋 一也
会議録の作成方法	☒ 要点記録 ☐ 全文記録
その他必要な事項	

様式第 3 号（第 8 条関係）

発言者	会議の内容（発言内容、審議経過、決定事項等）
事務局（矢部政策調整課長）	1 開会 この総合教育会議は法律により原則公開とされておりますが、傍聴を希望される方はおりません。 本日の会議録の署名委員について、名簿順で松永委員にお願いしたいと存じます
各委員	了承。
角田市長	2 あいさつ
事務局（矢部政策調整課長）	議事の進行については、加須市総合教育会議運営要綱第 4 条の規定により、会議の議事は市長が進行すると定められておりますので、角田市長に議事の進行をお願いしたいと思います。
角田市長	3 議題 「加須市がめざす学校教育について」 それでは議題について事務局から説明をお願いします。
斉藤生涯学習部長	（資料 1 について説明）
中島学校教育部長	（資料 2 について説明）
角田市長	教育委員さんは議論を重ねてきているので、全体像や経過もわかっていると思います。 資料 1 は、これまでの経緯や今後のスケジュールが書かれているということですね。 資料 2 では、規模や人数から検討するのは違うのではないかと、適正規模・適正配置という形で教育委員会へ依頼をしたのはどうだったのかなと思いました。 どういう子どもたちを育てたいか、加須市としてはそのために必要な教育環境や学校環境はどうあるべきなのか。それを具体化するとどうなるのかというステップが必要なのかなと思いました。 令和 7 年 2 月 3 日の教育委員会で意見が交わされているとのことですが、改めて意見を聞かせてください。
遠藤教育長職務代理者	今回の会議に際して、加須市の子どもたちにどのように育て欲しいかを改めて整理しました。 子どもたちが互いの違いを認め合い、学び合いながら成長できる教育が重要であり、学力や身体的能力の違いを前向きに受け止め、「みんなちがって、みんないい」と思える学校であって欲しいと思います。 また、生まれ育った加須市を大切に思い、進学や就職で市を離れても、最終的には地域を支える存在になってくれるとありがたいと思います。 また、今の子どもたちは何かと傷つきやすい子も多いため、「生き抜く力」を身につけて欲しいと思います。

発言者	会議の内容（発言内容、審議経過、決定事項等）
角田市長	学力はもちろん、コミュニケーション能力や思いやり、感謝の心や道徳心をこどもの頃から学んで欲しいと思います。 本来こうした教育は家庭の役割ですが、こどもの頃の学校の先生の影響は大きいため、先生方にもそういったところをフォローしていただきたいと思います。 あと、英語教育も大切ですが、日本語や日本文化を知り、生まれ育った国を知り、そういったものが自分たちの心の中に染みついて育ってきたということを大事にしてもらいたいと思います。 学校再編については、こどもたちや地域の意見を取り入れるだけでなく、日々こどもたちと接しており、こどもたちをよく知っている先生方の意見も取り入れ、再編に向けていていただきたいです。 どういうこどもになって欲しい、そのフィールドである学校はどうあるべきかという意見はあまりなかったのですね。 どんなこどもになって欲しい、どう育てていきたいという目標があり、それができる学校はどうあるべきなのか整理ができそうなのかという気がしています。 どんなこどもになって欲しいかというのは、現在人づくりプランとなっており、今度改訂となりますが、そういったステップなのだと思います。 例えば競争力もつける必要があり、切磋琢磨が必要なので、ある程度のスケールが必要という意見もお持ちのようですが、その学校がどうあるべきという考えがないと駄目なのだなと思いました。 どんなこどもになって欲しいか、そのためにどういう育て方をしたいかという意見を集約して欲しいと思います。
秋山委員	この問題を考えるとき、明治以来の大変革であり、非常に重いテーマであると常に感じています。特に、資料2の下から8行目に記載されている目指す教育が、現在最も問われている点であり、どのような教育をしていきたいのかが一番の議題になっていると思います。 加須市の特徴を見ると、幼保の充実が他の自治体とは異なり、また、地産地消が進んでおり、特に米の収穫量が多いため給食に特色があります。さらに、自然の豊かさも特徴です。 先日の教育委員の全国会議でも、加須市について「首都圏にありながら複式学級の学校も存在する一方、駅周辺では大規模な開発が進んでいる特殊な地域なのでは」との話がありました。市内では、駅から車で20分の場所に複式学級の学校があり、人口増加が著しい地域もあるということに皆さん驚いていました。 このような状況を踏まえ、市長がおっしゃった、競争力や知・徳・体をバランスよく育てて欲しいと思っています。 加須市は、都市部に近い地域と自然豊かな地域の両方を持ち合わせており、多様性に富んだ教育をできればよいのではと思っています。

発言者	会議の内容（発言内容、審議経過、決定事項等）
角田市長	す。 どんなこどもになって欲しいか、どんな教育をするか。 それを育むための学校教育がどうあるべきかという意見でした。 魅力ある学校教育を今まで加須はしてきた。その1つが、多様性ということですか。
秋山委員	そうです。栗橋駅に近いところなどは開発が進んでいるのと同時に、複式学級の学校も連携をうまくとりながら地域密着型で教育を進めているところもあり、なかなか例がない市だと個人的に思いましたし、教育委員の全国会議でも他市の委員さんが驚かれていました。
角田市長	地域密着型教育は、加須市の教育の魅力の1つで、残すべきだというふうに聞こえました。
秋山委員	やはり、地域ごとに違う特色があると思います。 例えばこの地域は地域密着型がものすごくマッチしているところと、駅に近く東京に毎日通勤をしているご家庭が多いところ、核家族のご家庭もあるなど多様性に富んだ街だと思います。 今も既に地域によって対応されていますが、やはりその地域の個性をうまくサポートしていくのが良いと思います。
角田市長	なるほどと思いました。 県南のような駅前には市街地もあり、マンションも一部ある。一方、農村部のような家が転々としている地域もあります。そういうところは学校で必然的にこどもの数が減ってしまう。でもそれが1つの市内にありますので、まちづくりも多様なのだと思います。 教育も多様なのでしょうか。地域と密着した学校の良さに魅力があるのを、壊してはいけないということなののでしょうか。
秋山委員	その地域にマッチしたものがあつた方が良いということです。
片山委員	今まで教育委員会では、いろいろ議論を重ねてきており、学校のあり方や基本方針の表現をどうするかというところになってきました。 少し角度を変えてみたのですが、教育委員会の中だけでなく、市全体の視点からも並行して考える必要があるのではないかと考えています。 もちろん、市長さんをはじめ、これまでもそのような位置付けではあつたと思いますが、これからは今まで以上にこどもファーストであつて欲しいと思っています。 私は、これまでの地域密着型の教育を高く評価していますが、逆に、地域から学校を見ると、それほど密着しているとは感じられず、学校が特別な存在のように感じてしまっているのではないかと思います。それが非常にもったいなく感じます。

発言者	会議の内容（発言内容、審議経過、決定事項等）
角田市長	せっかく加須市の教育が積み上げてきた良いものがあるのに、地域との接点があるようでないと感じています。 これからは、市全体も考え、学校を地域の拠点とした場合、地域の課題も学校と絡めて解決することができる、教育現場の課題も地域の力で解決できるものがあるかもしれません。 今は「地域は地域、学校は学校」という形に感じられてしましますが、もう少し密着し溶け込んだ形でやっていくのが良いと思っています。 良いものは継続しつつ、再編というよりは未来を見据えた革新、新たに生まれ変わるようなイメージで編成していくことで、加須市ブランド、加須オリジナルとなるのではないかと思います。 どういうこどもになって欲しいかよりも、器はこんな学校であって欲しいという意見ですね。 過去の片山さんの意見では、これから目指すべき学校と、今までの学校と紐付けてもらいたい。全てなしにして、新たに作るのではない。 また、市民に対する発信力が弱い。教育委員会は教育委員会で、そこで誰が何をやっているかを知らない市民が多い、という意見もあったと思いますが、情報発信は必要だと非常に思いました。
松永委員	他市の学校再編の基本方針を見ると、教育の基本理念を基に行うところと、教育活動に支障をきたすために行うところがありました。後者の場合、標準として2クラス規模にするなど規模の拡大を目的としているところが多く、結果的に途中で挫折してしまっているところもありました。 そのため、本市の教育理念としてどんなこどもたちを育てるか、どんな学校をつくるかが根本となります。 そのための必要な教育条件や教育環境の整備の1つが適正規模・適正配置となります。これを前面に出して市民へ説明することで、全ての人が納得し、市全体として進めようという機運が高まるのではないかと考えています。 私は、目指すべき学校教育とは、目指すべきこども像であり、身に着けるべき資質能力と考えています。 本市において生かすべき学校教育の特徴について、構造的に簡潔に考えを説明します。 未来をたくましく生きるこどもたちにどんな資質能力をつけるべきか、というのが教育の核であり目的のため、その前に学校再編はなく、実現できる環境を整える方策の1つが学校再編となります。 学校再編をせずとも実現できるのであればしない、必要であればするということを明確にしなければいけないと思います。 人づくり宣言にある「生きる力」は、確かな学力・豊かな人間性・健康体力が総合的に関わり発揮される力ですが、それぞれは小規模

発言者	会議の内容（発言内容、審議経過、決定事項等）
	集団でも育成可能です。 ですが、課題解決力には支障があります。課題解決力を育むためには、自身で解決する能力だけでなく、他人との協働が不可欠であり、特に後者は今後の社会で求められるものだと思います。 他人との協働は集団の中で活動しないと身につかない力のため、学校を再編して、適正規模の集団をつくらなければいけないという話になるわけです。 次に、本市の教育の特徴は、地域と協働する体制が確立されていることであり、他市にはないすばらしい特徴です。学校と地域が車の両輪となって教育を進めており、地域と連携した学校教育のブランドデザインを作ることにも可能なほど完成しています。 私たちの目指す教育は、こどもたちの課題解決力を中核に据え、それを地域と協働した形で進めていくということだと思います。 それはこどもたちや保護者、地域住民、学校関係者にとって魅力的なものとなり、総合的に作り上げることで、誰にとっても魅力的なものができると思います。 まとめると、目指す学校教育とは、自らの力で課題を解決し未来をたくましく生きるこどもを、地域と協働で育てていく学校教育ということになると思います。 前半の部分にある、自らの力で課題を解決し、未来をたくましく生きるこどもをつくるために、適正な学校規模について判断しなければいけません、文部科学省の基準でなければならないというわけではないと思います。 本市の小規模校で積み重ね、レベルの高い成果をあげているノウハウを活かせば、6学級でも力をつけるができるということが証明できると思います。私の感覚では、1クラス18人ほどいればできるかなと思います。 後半の部分の、地域密着・地域協働については、学校の適正配置では地域性を大事に考えた配置をしていくことが大切だと考えました。
角田市長	どんなこどもを育てたいかは、言い換えれば目指すべきこども像であり、それを身につけさせる環境としての場所は、2番目に考えることで、まずはこれまでの魅力の継続である。自分で課題が解決できる力、協働で他人と一緒に課題が解決できる力が身につけて欲しい能力であり、そのために、学校教育をやっているのだなというのがよくわかりました。
猪股委員	皆さんがこれまで言ったことはすべて同感です。 そもそもの話ですが、令和7年3月5日に文部科学省で、令和の日本型教育における適正規模・適正配置の第1回目会合がありました。

発言者	会議の内容（発言内容、審議経過、決定事項等）
	その際、適正規模の教育的効果について、科学的根拠はこれまで出ていません。部活動の地域展開と同様に、学校規模についても規模ごとに一長一短であるので、地域の実情に合わせて各自治体で考えてくださいとなりました。文部科学省が言うことに振り回されて、データベースに基づく統廃合の議論は全く意味をなさない状態です。 先ほど松永委員もおっしゃっていたように、一足先に取り組んだ自治体も失敗しているところかなり出ています。 加須市でも最近になって、この問題について議論が始まりましたが、真面目に考え過ぎてなかなか前に進まないと感じています。有名な先生が指摘したように、学校中心の議論では、学校の行き先を照らすことはできません。 この問題は、学校と地域が共生するか共倒れするかという大きな課題です。もちろん、学校の問題であるため、教育委員会が責任を持つべきですが、学校の視点だけでは再編の議論に限界があることを、これまでの話し合いを通じて痛感しました。 より具体的な提案をさせていただければと思いますが、国の教育方針に沿ってお金を得るための取り組みが行われていますが、加須市が目指すべき学校のあり方を考える際には、まず教育の質を第一とすべきです。 しかし、教育の質とはその時代の価値観や社会情勢、地域性などに左右されるため、一概にこれが質の高い教育と言い切ることはできません。 その中で、向くべき方向性の切り口は四つあると思います。 まず一つ目は、レガシーです。加須市の教育の中で、残すべき価値があるものが、先ほども紹介がありましたが、何であるかをまず出すことです。 次に、一番大事なのが先ほども片山委員が言っていたように、アイデンティティです。つまり、加須らしい教育のあり方ということで、地域密着型やコミュニティスクールなどというものです。 三つ目は、ビジョンです。どのような子どもたちを育てたいかという教育ビジョンを幾つかリストアップするということです。 最後に、エンパワーメントです。教育の再編は、学校、こどもや地域の全てがウィンウィンの関係にならないと成立しません。それぞれのステークホルダーにとってエンパワーメントできる形のものが必要です。 これらを覚えやすくL I V Eとして、四つの視点でキーコンセプトを出し合い話し合いを進めていく。その際、一番大事なのは持続可能性です。その時はすばらしくても、5年後に立ち行かなくては意味がありません。安定した制度とするには理想論だけではなく、行政コストとの兼ね合いを考えなくてははいけません。行政コストについては専門の人の関わりも必要です。

発言者	会議の内容（発言内容、審議経過、決定事項等）
角田市長 猪股委員 角田市長 猪股委員	ずっと議論が続いているため、本当にやる気があるのかと見られてしまいます。そういう意味で、加須市の教育のアイデンティティとしてやっていただきたいことがあります。 加須市の子育て支援は他市からも評価されており、子育て世帯へアピールもしているかと思います。やはり強みは活かすべきですし、既に生まれてから中学校卒業までの15年間の育ちと学びの過程を守る成果も出していますので、パッケージスクールとして、福祉支援も一体にして学校のあり方を考えることも加須市はできるかと思います。 また、分散型の小中一貫校いわゆるチェーンスクールについては、既に実践している大越小学校と樋遣川小学校について加須北中学校を中心とした展開や、関係ができている北川辺地域でパイロット的にやるなど、ソフト面での事前検証をすべきだと思っています。 やはり、こどもたちの学校教育のパフォーマンスを高めるためには、教員の働き方改革なども含め小さな場所から検証を実施すべきだと思っています。 実際に動いてみないと、他の地域で成功した取り組みが加須に適用できるかどうかは分からないため、来年度からでも着手して欲しいと思います。 皆がウィンウィンでないと、なかなか成功できないため、学校再編は地域づくりのきっかけになります。やはり、市民全体が地域にとっての学校とは何かというのを考えるいい機会なので、少しずつ、来年度から始められるところは始めていただければと思います。 エンパワーメントとは、わかりやすく言うとどのようなことですか。 例えば、こどもたちにとっては、学力向上やウェルビーイング向上がエンパワーメントになります。親にとっては子育てのしやすさ、地域にとっては学校を核とした地域づくりです。 エンパワーメントの本質は、それぞれの人が地域社会の中、自分の権利をしっかりと行使できるようになること、そして利益の向上を図ることです。ここでいう利益とは、社会的な利益全般を指します。 L I V Eは何かの頭文字ですか。 何を指すのかと問われたときに、説明しやすいレトリックの例として出したものです。生き生きしたこどもたち、生き生きした学校ということで、ライブリーで覚えやすいので、L I V Eとしました。

発言者	会議の内容（発言内容、審議経過、決定事項等）
角田市長	あと、加須で教育を受けた子たちが、大人になって家庭を持ってこどもを持ったときに、やっぱり加須に戻って子育てしたいよねと思うことこそ教育の成果だと思います。 ですから、私はアイデンティティというのは絶対大事だと思っています。
猪股委員	加須市の教育の特徴にあった、学校給食とは、何が特徴なのか。 地産地消ということと、米どころということでお米がおいしく量もある。私も県南部の方の給食を食べたことあるのですが全く違います。 例えば給食が無償になったときでも、加須の給食はおそらく質は落ちないだろうとたくさんの人が言っています。 そのくらい加須市の給食文化は誇るべきことだと思います。
角田市長	議会の一般質問でもやっぱり、お米の質問も多く出たので一点答弁したものがあります。平成国際大学の学食で使うお米を市内のものに変えたところ、おにぎりが飛ぶように売れ、おいしいと評判になったとのことでした。 学校給食でも残す割合が減っており、アンケートでも美味しいと言っているようでしたし、大人からそのように言ってもらえると、美味しいのかなと思います。
小野田教育長	学校のあり方については、当初は、先行している自治体の例を見ながら進められると思っていました。 先行している自治体では、まずは適正規模として、市にとって学級や学校は何人が適切なのかを検討する。次に、適正規模に基づき、統廃合を含む再編、適正配置を考える。併せて学校形態も考え、その中で、市の魅力ある教育の継承を検討するという話でした。 そのような順番で方針を作っていくのかと思い、プロジェクトチームへ依頼をしてきました。 ですが、教育委員さんの話であったように、今までの加須市の地域性を加味した教育を振り返り、その成果と課題をまとめた上で、新しい学校に求めるもの、土台を作る必要があるということで、事務作業とすると後戻りしてしまった感覚はあります。ですが、実際に学校形態を考える際には目指すべきものへ向かう必要があるため、原点に立ち返って話し合いをさせていただきました。 今後も、保護者や市民、こどもたち、教職員の意見をどのように聞くか等を考えながら議論を重ねていきたいと思いました。
角田市長	各教育委員さんに、それぞれの思いを語っていただいたのですが、付け足したいものがありましたらぜひお願いします。
松永委員	先ほど目指す学校教育について抜けているものがありました。

発言者	会議の内容（発言内容、審議経過、決定事項等）
角田市長	加須市のこどもたちだからこそ、地域を愛し、人との関わりを大切にしていって欲しいと思います。現代は関わらなくても情報が入ってくる社会ですので、人との関わりを大事にしたいというのは付け加えておきます。 また、適正配置の問題について、地域との協働を優先すべきという意見がありましたが、配置を考える際には通学路の安全性や距離だけでなく、地域密着を大切にすべきだと感じています。 例えば小中一貫教育を進める場合、地域をつなげる観点から中学校区を優先することが必要になるのでしょうし、そういった関係を考えていけたら良いと感じました。 本日の意見で、どんなこどもを育てたいか、目指すべきこども像が分かるのではと思います。 それを身に付けるために必要な環境である教育環境や学校環境には、ハード面とソフト面の両方があること。検討の際には、地域のよさや魅力、地域密着型教育、アイデンティティを基盤とすることが不可欠だということ。これらの要素が、学校づくりの骨格やアウトラインになるのだと思いながら聞いていました。 外部に示す際は、加須市が目指すべきこども像などがまとまってから出したほうがいいのでしょうか。 まとまってからだ時間がかかりますよね。
猪股委員	今後、魅力ある学校とはどういうものかを示したときに、それがどういうものなのかを私たちは説明をしなくてははいけません。やはり、こどもたち、先生、保護者の意見を早期に聞きたいと思います。そうしないと、私たちの偏った思いに頼って、経験だけで物事を進めてしまうリスクがありますので、やはり当事者の、特にこどもの声はぜひ聞いていただきたいと思います。 また、地域の意見については、最初から取り入れる必要はないと私は考えています。方向性がある程度まとまってから地域に伝えないと、さまざまな立場の人がいる中で、全員が納得する結論を出すのは難しいと感じます。その際、こどもや当事者の意見が手元にあれば、説得やアプローチの仕方を工夫することができます。 こどもの意見を集める際には、外国籍のこども、特別支援が必要なこども、不登校のこどもなど、マイノリティとされるこどもたちの抱える課題を認識した上での学校づくりという視点が欠かせないと思います。
角田市長	そのアンケートは、どういう形式がいいのでしょうか。
猪股委員	選択式は誘導にもなりかねません。複数回答可だとしても、選択肢は教育委員会が考えた、教育の専門家の意見となってしまいます。自由記述はまとめ方が大変ですが、それが大事ということです。 また、説明会に来た人の意見は、説明を聞いた上で、発言した人

発言者	会議の内容（発言内容、審議経過、決定事項等）
角田市長	のみの意見になってしまいますし、発言しない人もいますし、来ない人もいます。 ですので、全員アンケートというのは必要ではないでしょうか。 アンケートは今後のスケジュールには入ってないのだけど、やった方が良いでしょう。 別件の事例でも、アンケートを取ればよかったと今になって思います。賛成の人はサイレントマジョリティなので、反対する人や要求する人しか発言しないのですよね。 選択肢は、教育委員さんの話で出た魅力ある学校をリストアップして、その他のところで自由記述してもらう形で作ったら良いのかもしれない。 情報発信は、全部まとまってからではなく、今こういうことをやり始めた、今回ここをやりますよという形でしょうか。
遠藤教育長職務代理者	広報でしょうか。
角田市長	出し方もいろいろあると思います。 広報かぞだと月1回になってしまうので、SNSでも出していかないと、片山委員からの意見であったように、何をやっているか全くわからない、いざ蓋を開けてみたらということになってしまいます。 一昨日聞いた話ですが、ある市では、審議会や住民説明会、利用者説明会を行った結果、水道料金を引き上げることが決定しました。ですが、実際にその決定を知らせると、「そんなことは聞いていない」「なぜ今まで知らせなかったのか」といった声上がり、新聞報道でも取り上げられています。
遠藤教育長職務代理者	地域密着型という話が出ているのですけれども、大利根地域を例に挙げると元和地区は引っ越してきた人がかなり多くなりました。 やはり地元ですっと過ごされてきた方と、新しく来た方というのは、学校に対する温度差もありますし、地域に対する想いというのも違うと思います。それでも同じように、想いを伝えていくのがとても大事ななと思いました。 SNS等で発信するというのも大事ですけれども、SNS自体を使わない方も多いので、その辺の情報発信が今後課題になってくると思います。
角田市長	他にございますか。 本日は意見を伺い、目指すべきことも像などが見えてきたかと思いました。ありがとうございます。 議事は以上となります。
事務局（石井総合政策部長）	4 その他 連絡事項が2点ございます。

発言者	会議の内容（発言内容、審議経過、決定事項等）
石井総合政策部長	（連絡事項「加須市人づくり宣言」「令和7年度組織の見直し」説明） 連絡事項は以上になります。 5 閉会
会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名します。 令和7年 3 月 25 日 署名 <u>松 永 修</u>	